

私の戦中・戦後 ～銃後のくらし～

加茂 静江

私が生まれたのは昭和8（1933）年、この時すでに満州事変の最中にあり、5才になった頃に支那事変が始まりました。

小学校3年生のとき大東亜戦争が始まり、終戦の年は国民学校高等科1年生。

この期間が私の戦中となります。

あまり世の中を知らない幼い時代のこと、さらに生まれたところが純農村地帯で、戦争を実感する情報が乏しく、周囲の人々が皆同じ条件の中で生活をしているため、比較対照することもなく、戦争の厳しさをさほど感じないで過ごしたように思います。

戦後となると、少しは大人の仲間入りをする年齢にもなり、敗戦という、いまだかつて体験したことのない出来事で、いかに田舎といっても周囲の人々は大変混乱し、生活の端はしに大変な厳しさを体験させられました。

こうした中での戦中・戦後でしたが、それぞれ体験したこと、感じたことを率直に書いてみました。

満州事変（まんしゅうじへん）

昭和6（1931）年、当時の中華民国の都市・奉天（ほうてん、現：瀋陽（しんよう）市）において、関東軍（満州における日本軍の部隊）が南満州鉄道の線路を爆破したことをきっかけに始まった、日本と中国との武力紛争。戦闘の結果、満州地域全域は、関東軍によって占領され、翌年の「満州国」建国につながった。

支那事変（しなじへん）

昭和12（1937）年から、日本と、当時の中華民国との間で行われた戦闘。宣戦布告が行われなかったため、当時の日本では戦争ではなく事変と称された。戦後、太平洋戦争に重なる期間も含めて、日中戦争と称されるようになった。

大東亜戦争（だいてうあせんそう）

昭和16（1941）年、支那事変も含め、アジア・太平洋地域での、日本とアメリカ、イギリス、中国等との一連の戦争を、大東亜戦争とすると閣議決定がなされたことによる呼称。戦後、アジア・太平洋戦争の呼称が、代わって用いられるようになった。

私の伯父は支那^{しな}事変の頃、陸軍に入隊し、そのまま職業軍人として軍隊勤務をしていましたが、大東亜戦争が始まって間もなく、伯父の階級が上がったので刀（軍刀）を買って送らなければならなくなり、私の父が大変困っていましたが、なんとか都合をつけたのでしょう。それから一カ月後に、軍刀を帯びた伯父の写真が送り届けられ、みんなで惚れ惚れ眺めたことを思い出します。

私たちの小学校は、生徒数が少なく、全学級複式授業で、3年生と4年生が同じ教室で授業を受けました。

学級担任は若松先生で、『明日までの宿題に、赤クローバーの種子を採れるだけ沢山採ってこい』と言われました。その頃、赤クローバーは道端に沢山あり、放課後、家に帰らず種子採りをはじめましたが、時のたつのも忘れて日暮れとなり、家に帰るのが遅くなり大変叱られました。（後で知ったことですが、クローバーは軍馬の飼料にするためでした。）

この他にもイタドリの葉を全員で採り、兵隊さんのタバコの代替品とし、また石炭小屋の片隅でウサギを飼い、毛皮を戦地に送りました。

高学年の生徒は、軍馬の飼料として、野草を刈り、乾燥させるという重労働もしていました。

また、農村地域では、男の人たちがほとんど軍隊に召集され、人手不足のため、小学校の高学年は「援農休暇」が頻繁^{ひんぱん}にあり、戦争に勝つため止むを得ないことと言いながら、小学校ですら教室での授業は段々少なくなっていったように思います。

小学校6年生のとき、学級担任の若松先生にも召集令状が来ました。

召集令状（しょうしゅうれいじょう）

軍隊が在郷（民間）の予備役（現役で軍務に就いていない軍人）を集めるために出す命令状。戦時中、日本国民は全員何らかの兵役に就くこととされており、徴兵検査を受け、対象者名簿に掲載された人々に対し、令状を渡し、軍に召集した。充員召集、臨時召集、国民兵召集等には、赤い紙が使われたので「赤紙」と呼ばれた。

出発前の訓示を今でも思い出します。

『先生も明日、皆さんとお別れします。本当は元気で帰ってきて、又皆さんと楽しく勉強をしたいのですが、生きて帰るとは云えません。出発の時にも行って来ますと言わず、行きます。と挨拶します。皆さんも今まで通り頑張ってください。』

黒い詰め襟^{えり}の服に日の丸の旗を襷^{たすき}にかけた先生を、万歳三唱で見送りました。みんなの目には涙がにじんでいました。

この頃、毎朝ラジオから『隣組の歌』が放送され、学校でもみんなが口ずさんでいました。

(一) とん とん とんからりと 隣組

格子を開ければ 顔なじみ

廻して頂戴 回覧板

知らせられたり 知らせたり

(二) とん とん とんからりと 隣組

あれこれ面倒 味噌醤油

ご飯の炊き方 垣根越し

教えられたり 教えたり

(三) とん とん とんからりと 隣組

地震やかみなり 火事どろぼう

互いに役立つ 用心棒

助けられたり 助けたり

(四) とん とん とんからりと 隣組

何軒あろうと 一世帯

心は一つの 屋根の月

まと纏められたり まと纏めたり

隣組の歌（となりぐみのうた）

岡本一平作詞（作詞著作権消滅）、飯田信夫作曲で、歌は徳山璉（とくやま たまき）。昭和15（1940）年6月17日、ラジオの『国民歌謡』で放送され、レコードも発売された。戦時中、導入された「隣組」制度を広める目的で作られた歌。

また、男子生徒の間では、変な替え歌も流行っていました。

ツウ ツウ レロ レロ ツウレーロ
ツウレーラレ ツレトレシャン
ツレラレトレ シャン シャン シャン
ルーズベルトのベルトが切れて
チャーチル チル チル 首が散る 首が散る

戦争最後の年、昭和 20 (1945) 年には美唄の上空にも敵の飛行機が飛んできたと言われていますが、私はぼやっとしていたのか、あまり記憶にありません。しかし、空襲警報が出た時は、電灯に黒い布がかけられ、暗くて本が読めず、困った記憶が何回かありました。

ルーズベルト

フランクリン・ルーズベルト (1882-1945)。第 32 代アメリカ合衆国大統領 (在任期間：1933～1945 年)。名前はローズヴェルトとも表記される。現在まで唯一、4 度選出された大統領であり、在任期間は歴代最長 (4422 日)。日本軍によるハワイ州の真珠湾への攻撃を受け、日本に宣戦布告した。

チャーチル

ウィンストン・チャーチル (1874-1965)。イギリス首相 (在任期間：1940～1945 年、1951～1955 年)。第二次世界大戦において、強力な指導力により、同国を戦勝国に導いた。戦後は共産主義のソビエト連邦に対し、西側諸国の結束を呼びかけた。

空襲警報 (くうしゅうけいほう)

敵機襲来の目的地がつかめないうち、サイレンなどにより警戒を呼びかけた「警戒警報」と、より切迫した敵機来襲の場合に発令される「空襲警報」の 2 段階で警報が出される仕組みになっており、「防空警報」と総称された。

8月15日、焼け付くような暑い日、天皇陛下の玉音放送ぎよくおんがあるとわれ、全生徒が校庭に集合しました。終戦の詔書が放送されましたが、私たちには難しくよくわからず、校長先生が涙声で戦争が終わったことを教えてくださいました。

盂蘭盆うらぼんでもあり、家に帰ると近所の人たちが沢山集まっており、戦争に負けたことを残念がり、そして米国や英国の兵隊さんが来ることを恐れる話で大騒ぎでした。

終戦後の思い出としては、すべての物資が不足していたことがあります。

私の父は産業組合（現：農業協同組合）に勤めていましたから、戦争中でも、余り食べ物の不自由は感じませんでした。戦後になってからは、農家でも生産した米の供出割り当てが厳しく、端境期はざかいきになると米不足で大騒ぎでした。まして非生産者の私たちは、毎日の食べ物不足で思わぬ苦勞をしました。街の人たちはすべての食べ物が欲しくて、『物々交換』といって、自分たちの持っている貴重な衣類と、コメは勿論、野菜類と交換していく有様でした。これを『タケノコ生活』とよんでいました。

私の家でも、農家から水田や畑を借りて米や野菜類など、何でも作りました。私も国民学校を卒業してからは、一生懸命にコメづくりなどの農作業に汗を流し、農家の大変さが身に沁しみしました。

ある時、隣家のお姉さんがお嫁入りすることとなり、はじめて衣料切符がないと衣類が買えないことを知りました。この制度は昭和 17 (1942) 年から始まり、昭和 25 年まで続けられたようですが、一年間、国民一人当たりの割り当て点数が決められており、正確に記憶していることではありませんが、町村郡部在住者は 80 点、都市部在住者は 100 点、この他に特例として、女性の婚約者には 250 点が特配されたと云いますが、今度は点数があってもお店に商品がなく、農家の娘さんは、米と交換することで必要なものを集めたと聞いています。

(参考) 洋服は 50 点、学生服 32 点、女子ワンピース 15 点、着物 48 点、

スカート 12 点、ワイシャツ 12 点、パンツ 4 点、靴下 3 点、手拭い^{てぬぐ} 3 点。

衣料切符 (いりょうきっぷ)

昭和 17 (1942) 年から衣料品点数切符制が実施され、切符がないと衣料品が手に入らなくなり、各衣料品により、交換する切符の点数が決まっていた。



終戦直後には使うお金にも制限があり、銀行の貯金も一定額しか払い戻しが出来ません。その上すべての物資が不足しており、お金を持っていても正規のルートでは物を買うことが出来ませんので、法律を犯して物の売買が行われ、そのことをヤミ取り引きと言っていました。

笑えない話ですが、真面目な裁判官が『ヤミ米は一切食べない』と言って、ついには餓死するといった事件が新聞を賑わしたこともありました。

今、私も 82 才と長生きさせて頂き、あまり豊かな生活を送っているとは言えませんが、戦中戦後の生活と比較する時、その格差があまりにも大きいことを改めて認識させられ、二度と戦争はしないよう、平和な時代がこれからも永く続くことを祈り、ペンを置かせて頂きます。

(かも しずえ 昭和 8 (1933) 年 美唄生まれ)



【参考】沼東小学校でのウサギの飼育（昭和 18 (1943) 年頃）